



2023年度 創発的研究支援事業 公募概要説明

概要のみの紹介です。
応募にあたっては募集要項をお読みください。

国立研究開発法人科学技術振興機構
創発的研究推進部

事業の概要

自由で挑戦的・融合的な構想に、リスクを恐れず挑戦し続ける**独立前後の多様な研究者**を対象に、**最長10年間の安定した研究資金**と、**研究者が研究に専念できる環境の確保**を一体的に支援する。

応募要件：大学等における**独立した／独立が見込まれる研究者**

■ 博士号取得後15年以内（出産・育児等ライフイベント経験者は別途要件緩和）

採択予定件数：**750件程度** 注：令和4年度第2次補正予算により措置（公募回数は調整中）

〔参考：これまでに実施した3回の公募により、750～800件程度を支援（見込）〕

【事業スキーム】



特徴

研究資金と研究環境の一体的な支援のもと、挑戦的な研究を「**創発の場**」を形成しつつ強力に推進

(700万円/年(平均)+間接経費) × 7年間(最長10年間) の長期的な研究資金

- 研究の進捗や研究者の環境等に応じ機動的に運用。
- **バイアウト制度**(研究以外の業務の代行に係る経費を支出可能)のほか、研究代表者の人件費(**PI人件費**)を支出できる仕組みを先行的に導入。
- 研究開始から3年目、7年目にステージゲート審査を設け、研究の進捗等を評価。



※は令和5年度予算額（案）で計上。それ以外は、令和4年度第2次補正予算で措置

研究環境改善のための追加的な支援

- 採択研究者の研究時間確保など**環境改善に努めた所属機関**を追加的に支援し、取組を引き出す。
- 研究の進捗等に応じた**柔軟な追加支援**による研究加速を図る。(※)



「創発の場」の形成

- **POによるマネジメント**の下、採択研究者同士が互いに**切磋琢磨し相互触発**する場を提供。



優れた人材の意欲と研究時間を最大化し、研究に専念 ⇒ 破壊的イノベーションにつながる成果へ

■ 経済財政運営と改革の基本方針2022（令和4年6月7日閣議決定）

破壊的イノベーションの創出を目指し、初期の失敗を許容し長期に成果を求める研究開発助成制度¹⁶⁵を推奨する。

165 ムーンショット型研究開発制度、**創発的研究支援事業**等。

■ 新しい資本主義のグランドデザイン及び実行計画（令和4年6月7日閣議決定）

初期の失敗を許容し長期に成果を求める研究開発助成制度を奨励する。具体的には、ムーンショット型研究開発制度、**創発的研究支援事業**をはじめとした複数年度に渡って支援する公募型の研究開発支援について、初期の失敗を許容しより長期に評価を行う方向で改善・強化する。



研究期間、研究費等

- ✓ 研究期間 原則7年間（最大10年間）
 フェーズ1（3年間）・フェーズ2（4年間）
 3年目にステージゲートあり

- ✓ 研究費 5,000万円（上限）
 (直接経費) フェーズ1：2,000万円（上限）
 (間接費：直接経費の最大30%)
 ※別途、RA追加経費支援あり（予定）

- ✓ 採択予定件数 200～250件程度

詳細は、募集要項 2.3 ～ 2.5 へ



2023年度公募スケジュール

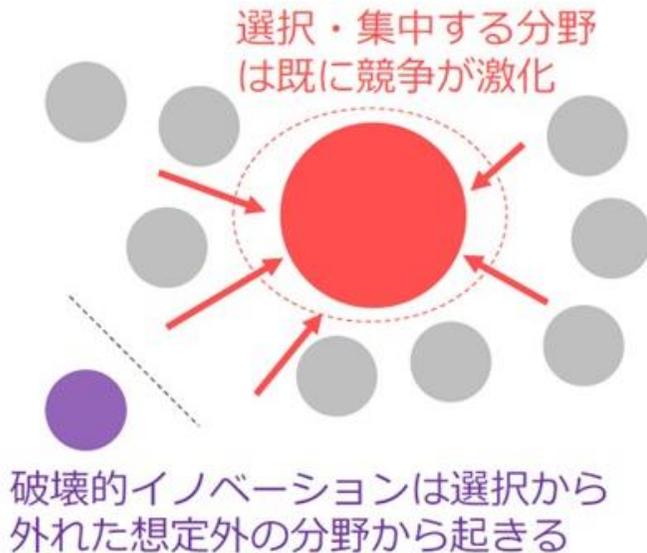
研究提案の募集開始	<u>2023年8月23日（水）</u>
研究提案の受付締切 (e-Radによる受付期限日時)	2023年10月25日（水） 午前12時（正午）
書類選考期間	2023年10月下旬～2024年2月下旬
面接対象者への通知	2024年2月上旬～3月下旬
面接選考期間	2024年3月上旬～5月上旬
選定課題の 通知・発表	2024年5月中旬以降順次通知・発表
研究開始	2024年10月以降開始



応募における注意事項

- ✓ 指定された募集締切日時（10月25日（水）午前12時（正午））までに応募手続きが完了していない提案については、いかなる理由があっても不受理とします。
- ✓ また、募集締切日時以降の提案書の差し替え等には応じられません。
- ✓ 締切間際はe-Radにアクセスが集中することでレスポンスが遅くなる可能性がありますので、十分な時間的余裕をもって、応募を完了してください。

選択と集中



戦略と創発



出典：Society5.0の実現に向けた「戦略」と「創発」への転換（日本経済団体連合会）

創発とは（「組織論」より）

「個人個人の能力や発想を組み合わせる取組により、ある一定の要件に基づいた予測や意図を超えるイノベーションを誘発する様」



創発的研究支援事業の特色

破壊的イノベーションにつながるシーズ創出のために、 創発的研究を支援

- ✓ 失敗を恐れない野心的な**挑戦**への支援
 - ・ 長期的研究費（原則7年・最長10年）
 - ・ 独立した/独立予定の研究者が対象
 - ・ 研究に専念できる環境整備を支援
- ✓ **多様性**の向上
 - ・ 多様な研究課題・研究者、国際流動性の向上
- ✓ **融合**の促進
 - ・ 創発の場の提供、メンター制度



独立に関する条件

**独立して世界で戦おうとする気概のある若手研究者
(独立した/独立予定の研究者) を支援します。**

募集要項2.6.1.(3) 独立に関する条件

以下の独立に関する条件を満たすこと、又は原則フェーズ1（3年間）の間に満たすこと

- 自己の研究に係る論文について、責任著者の立場にあること
- 大学院生等*の指導に責任を持つこと、又は持つ立場にあること
- 研究グループを組織して研究を行う場合は、そのグループの責任者であること
- 研究室を持つこと**

* 研究員や学部生も含みます。学位審査権は必須ではありません。

** 独立した研究を行うために必要な研究設備が置かれている部屋や研究を遂行する部屋の管理の責任者であること。管理者として研究機関に登録されることは必須ではありません。

**第一期生（研究開始後3年目）のほぼ全員が、
様々な支援の下、独立に関する条件を満足する予定です。**



追加研究環境整備支援

募集要項 3.4.2 創発的研究の遂行にふさわしい適切な研究環境の確保

本事業では、研究者の裁量を最大限に確保し、各研究者が所属する大学等の研究機関の支援の下で、創発的研究の遂行にふさわしい適切な研究環境が確保されることを目指すこととしています。例えば、所属機関には「本事業の予算は限定的であることから、本事業で支援する研究者が利用できる研究機器の共用」や、「大学教員の研究時間は年々短くなっていることから、研究時間確保のための所属機関の配慮・支援」、「研究者の独立に向けた支援」など、研究者の置かれた状況に応じた、きめ細やかな支援を期待します。なお、本事業で支援する研究者が創発的研究に集中できる研究環境を確保するため積極的かつ秀でた支援を実施した所属機関に対しては、各創発研究者のフェーズ1終了時に審査を行い、その結果を踏まえ、追加研究環境整備支援を行います。詳細は、「3.4.3 追加研究環境整備支援」をご参照ください。

- ・ 審査時期： ステージゲート審査（3年目）と同時期
- ・ 機関あたり支援額（最大）： 1機関あたり最大5,000万円/期程度
（支援人数が多い研究機関の場合）
- ・ 追加研究環境整備支援の用途： 創発研究者を中心とした、若手研究者の研究環境改善

支援の詳細は、募集要項 3.4.3 追加環境整備支援 [へ](#)



5月25日開催

創発的研究支援事業における研究環境改善の好事例

★ 独立支援

○ポスト確保支援

- ・創発採択を機に昇格（千葉大学・東京大学・神戸大学・鹿児島大学 等）
- ・若手研究者の昇任枠を拡充（熊本大学）
- ・創発採択を機にテニユアのポストに移行（岐阜大学・大阪大学・岡山大学 等）
- ・テニユアトラック審査期間を短縮（広島大学）
- ・所属分野の廃止や、部局で創発研究者の雇用財源を確保できなくなった場合にも本部がその人件費を補填（東京医科歯科大学、名古屋大学）

★ 研究時間確保に向けた配慮

○学内事務の減免

- ・学長・理事等より部局長に対し、創発研究者の学内事務負担の軽減を図るよう指示（千葉大学・長岡技術科学大学・京都大学・大阪大学・岡山大学 等）
- ・創発研究者の事務負担を軽減し研究時間を確保するために事務補佐員の人件費を支給（群馬大学）

★ 研究加速に向けた支援

○人件費支援

- ・創発研究者が雇用するポストクや学術研究支援員の人件費を支給（東京大学・電気通信大学・横浜市立大学・北陸先端科学技術大学院大学

○研究スタートアップ支援

- ・大阪公立大学 等）
- ・創発研究者にスタートアップ資金を支給（北海道大学・群馬大学・山梨大学・徳島大学・高知工科大学 等）

○研究スペースの優先的使用や共同設備利用料金減免・利用料支給

- ・創発研究者への研究スペースの優先提供（岐阜大学・豊橋技術科学大学・関西医科大学・徳島大学・小山工業高等専門学校 等）
- ・創発研究者の共用設備利用料を学内規定料金よりも安価に設定/利用料補填（北海道大学・東北大学・東京医科歯科大学・東京工業大学・九州大学 等）

○PI人件費利用時の研究費補填

- ・PI人件費を支出した創発研究者に対し、同額の研究費を支給（芝浦工業大学）

○学生配属の配慮

- ・学長・理事等より部局長に対し、創発研究者の研究室に学生を配属する際に配慮するよう指示（山形大学）

○URA伴走支援

- ・創発研究者に担当URAを優先的に配置（芝浦工業大学）

※研究機関名は文部科学省 学校コード順に記載

※全学的な取組と部局単位の取組が混在することに留意

3



文部科学省

【資料6】「創発的研究支援事業」研究機関による研究環境改善の取組〈好事例〉について

https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/gijyutu/gijyutu27/siryu/mext_00006.html



創発の場・採択後のメンター制度

- ✓ 採択された研究者は、創発を興すために定期的に行われる「創発の場※」に参加・発表・議論・運営等を行って頂きます。

※ 知の触発、融合研究の促進、ネットワーク構築

- ✓ 成果の最大化に向け、創発プログラムオフィサーおよび創発アドバイザーの指導、進捗管理を受けます。

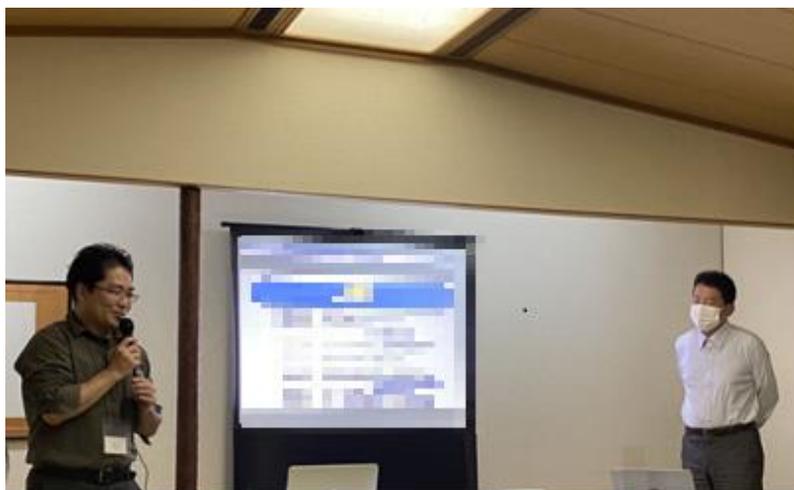
創発とは（組織論より）

「個人個人の能力や発想を組み合わせる取組により、ある一定の要件に基づいた予測や意図を超えるイノベーションを誘発する様」

詳細は、募集要項 3.4.4 創発の場 へ



多様な仕掛けによる研究者の融合そして知の創発を触発 異分野融合、知の発展を誘発する「創発の場」の提供、開催支援



**第1回 動く・流れるソフトマテリアル研究会
(創発研究者の自発的な開催)**



伊丹/福島パネル 創発の場



@札幌



@金沢



@東京



@大阪



@広島



@福岡 ...

第1回「融合の場」(パネル横断、全国14か所で開催)



第2回「融合の場」



2020～2022年度（第1～3回） 創発的研究支援事業 公募結果の概要



創発的研究支援事業採択者所属（124機関：採択時所属）

所属	採択	所属	採択	所属	採択	所属	採択
東京大学	85	大阪公立大学	4	富山大学	2	国立精神・神経医療研究センター	1
京都大学	69	量子科学技術研究開発機構	4	豊橋技術科学大学	2	宇宙航空研究開発機構	1
名古屋大学	55	信州大学	4	東海大学	2	国立極地研究所	1
東北大学	53	明治大学	4	福井大学	2	日本原子力研究開発機構	1
大阪大学	48	国立がん研究センター	4	香川大学	2	がん研究会	1
東京工業大学	31	京都工芸繊維大学	4	龍谷大学	1	かずさDNA研究所	1
九州大学	30	高エネルギー加速器研究機構	4	名古屋工業大学	1	高知工科大学	1
筑波大学	23	山形大学	3	北陸先端科学技術大学院大学	1	京都府立医科大学	1
北海道大学	21	埼玉大学	3	北見工業大学	1	宮崎大学	1
理化学研究所	19	名古屋市立大学	3	法政大学	1	基礎生物学研究所	1
金沢大学	16	東京慈恵会医科大学	3	日本医科大学	1	関西大学	1
熊本大学	15	長岡技術科学大学	3	奈良県立医科大学	1	関西医科大学	1
慶應義塾大学	15	藤田医科大学	3	同志社大学	1	横浜市立大学	1
広島大学	13	長崎大学	3	東京農業大学	1	宇都宮大学	1
産業技術総合研究所	12	鳥取大学	3	東京女子医科大学	1	杏林大学	1
東京農工大学	11	東京理科大学	3	東京海洋大学	1	愛知県がんセンター（研究所）	1
千葉大学	10	海洋研究開発機構	3	帝京大学	1	島根大学	1
早稲田大学	9	東京都立大学	3	長崎国際大学	1	東京都市大学	1
順天堂大学	9	立命館大学	2	アストロバイオロジーセンター （自然科学研究機構）	1	京都府立大学	1
神戸大学	9	国立循環器病研究センター	2	帯広畜産大学	1	山陽小野田市立山口東京理科大学	1
岡山大学	8	三重大学	2	千葉県がんセンター（研究所）	1	ヨーテボリ大学	1
東京医科歯科大学	7	横浜国立大学	2	摂南大学	1	ミシガン大学	1
沖縄科学技術大学院大学	7	近畿大学	2	静岡県立大学	1	マックスプランク研究所	1
徳島大学	6	生理学研究所（自然科学研究機構）	2	青山学院大学	1	ヘルムホルツ協会ミュンヘン	1
電気通信大学	6	お茶の水女子大学	2	成蹊大学	1	フリッツ・ハーバー研究所	1
新潟大学	5	国立情報学研究所	2	秋田大学	1	テキサス大学	1
岐阜大学	5	東京都医学総合研究所	2	自治医科大学	1	コネチカット大学	1
物質・材料研究機構	5	山梨大学	2	札幌医科大学	1	オックスフォード大学	1
分子科学研究所（自然科学研究機構）	5	芝浦工業大学	2	小山工業高等専門学校	1	オーストラリア国立大学	1
愛媛大学	5	奈良先端科学技術大学院大学	2	呉工業高等専門学校	1		
鹿児島大学	4	群馬大学	2	森林研究・整備機構	1		
山口大学	4	静岡大学	2				



本資料は概要の紹介です。
応募にあたっては募集要項をお読みください。



主な変更点・お願い

- ✓ 2020年度～2022年提案募集では、応募回数は3回のうち2回という制限を設けてましたが、本年度提案募集からはこの応募回数制限を撤廃します。
- ✓ 創発的研究支援事業に応募したことがある研究者については、提案書に、前回の提案との差異・改善点を記入してください。
- ✓ 審査体制が刷新されます。二代目創発PO/ADおよびメッセージについては、創発HPをご参照ください。（ADについては手続きの関係で順次HPで公開していきます）
- ✓ パネル構成が変更となりましたので、各パネルが主に担当する分野については募集要項6.1「創発POが主に担当する分野」をよくご確認ください。
- ✓ 審査の質の観点から、ご提案の研究分野に一番近いパネルおよび研究分野（主、副）を選択してください。なお、採択後には、パネル間の交流も推進します。



有田誠
慶應義塾大学

【主担当】基礎医学・薬学等

創発PO

創発研究者採択（審査）、メンター（育成）
創発の場運営（融合促進）



鄭雄一
東京大学

【主担当】臨床(社会医学・人間医工学)等

岡田真里子
大阪大学



【主担当】生物（分子・細胞）等

後藤真孝
産業技術総合研究所



【主担当】情報等

永江知文
京都大学



【主担当】数学・物理・天文・地球惑星科学等



沖大幹
東京大学

【主担当】環境・建築・土木・防災等



斎藤通紀
京都大学

【主担当】生物(ゲノム・発生・進化)等



馬場秀夫
熊本大学

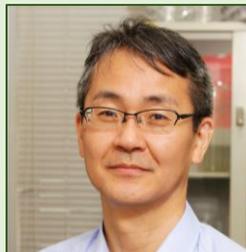
【主担当】臨床(外科・内科)等

加藤忠史
順天堂大学



【主担当】脳・神経科学等

神原均
名古屋大学



【主担当】農学等

古原忠
東北大学



【主担当】材料・化学(無機・金属)等



龔劍萍
北海道大学

【主担当】材料・化学(有機・バイオ)等



塩見淳一郎
東京大学

【主担当】機械・電気工学等



森初果
東京大学

【主担当】材料・化学(物性・計測・解析)等



創発パネルの構成（創発POと創発AD）

有田パネル

創発PO・創発アドバイザー一覧

創発PO: 有田 誠(慶應義塾大学 薬学部 教授)



【専門分野】 医化学、薬系衛生・生物化学、機能生物化学、分子生物学

東京大学にて博士号(薬学)取得後、米国Harvard Medical School、東京大学大学院薬学系研究科・准教授を経て、2016年より慶應義塾大学薬学部・教授、2022年よりヒト生物学-微生物叢-量子計算研究センター(WPI-Bio2Q)・副拠点長、2023年10月より同薬学部長を務める。2014年より理化学研究所生命医科学研究センター・チームリーダー、横浜市立大学大学院生命医科学研究科・大学院客員教授(兼務)。この間、新学術領域研究「リポクオリティ」領域代表、JST-ERATO「リビドームアトラス」研究総括などを歴任。文部科学大臣表彰若手科学者賞、日本脂質栄養学会ランズ賞学術賞、文部科学大臣表彰科学技術賞(研究部門)を受賞。専門は、医化学、薬系衛生・生物化学、機能生物化学、分子生物学。最先端リビドミクスの技術開発を通し、生体内で脂質多様性やその局在性を創り出し、調節・認識するしくみの解明、およびその破綻による疾患解明、代謝制御による治療や診断への応用を目指す。

創発アドバイザー(五十音順)

石濱 泰 京都大学 大学院薬学研究科 教授

西田 基宏 九州大学 大学院薬学研究院 教授

※創発アドバイザーは順次公開予定

参照：創発事業HP



創発POの主担当分野およびメッセージ（参考）

創発POが主に担当する分野（有田POの事例）

創発パネル	コード	分野	コード	研究の内容
有田パネル	189	ライフサイエンス	47010	薬系化学、創薬科学
	189	ライフサイエンス	47020	薬系分析、物理化学
	189	ライフサイエンス	47030	薬系衛生、生物化学
	189	ライフサイエンス	47040	薬理学
	189	ライフサイエンス	47050	環境、天然医薬資源学
	189	ライフサイエンス	47060	医療薬学
	189	ライフサイエンス	48010	解剖学
	189	ライフサイエンス	48020	生理学
	189	ライフサイエンス	48040	医化学
	189	ライフサイエンス	49010	病態医化学
	189	ライフサイエンス	49020	人体病理学
	189	ライフサイエンス	49030	実験病理学
	189	ライフサイエンス	49040	寄生虫学
	189	ライフサイエンス	49050	細菌学
	189	ライフサイエンス	49060	ウイルス学
	189	ライフサイエンス	49070	免疫学
189	ライフサイエンス	50010	腫瘍生物学	
189	ライフサイエンス	50020	腫瘍診断、治療学	

参照：募集要項6.1

創発POメッセージ（有田POの事例）

本パネルでは、ライフサイエンス分野で主に薬学・基礎医学関連の幅広い研究領域をカバーしています。長期的視野に立った基礎研究の推進には科学技術の進歩が欠かせず、両者の関係はよく車の両輪に例えられます。近年では画期的な計測技術や情報科学の進歩により、複雑な生命現象や病態の統合的理解が飛躍的に進んでいます。

破壊的イノベーションにつながるシーズの創出を目指す創発的研究支援事業では、既存の研究領域の枠組みにとらわれる必要はなく、未来の発展を見据えたスケール感のある研究提案を大いに歓迎します。新しい分子の発見や相互作用の解明は、メカニズム不明であった生命現象や病態に対して根本的な解を与え、新しい科学分野の形成・発展の土台になってきました。自然が作り出した生命の仕組みに対し、一面的でなく多面的に向き合うことでその本質の一端に触れ、息を呑むような体験をすることがあります。

研究分野の多様性やオリジナリティ、実直で質の高いサイエンスを通して、そのような感動に向かうプロセスを皆様と共有・共感することができれば幸甚です。失敗を恐れず、どうぞ自由な発想に基づく挑戦的な研究をご提案ください。

参照：創発事業HP



審査フロー





人文社会審査チーム

人文社会審査チーム

創発チーフ・アドバイザー・創発アドバイザー一覧

創発チーフ・アドバイザー：小林 傳司(大阪大学 COデザインセンター 特任教授)



【専門分野】 科学哲学・科学技術社会論

京都大学理学部卒、東京大学科学史・科学基礎論博士課程単位修得満期退学後、福岡教育大学、南山大学を経て、2005年大阪大学教授、2015年より理事・副学長を務め、2020年より同名誉教授、COデザインセンター特任教授。2019年よりJST 社会技術研究開発センター(RISTEX)上席フェロー、同センター長を兼務。科学技術社会論学会を立ち上げ(初代会長)。日経BP・BizTech図書賞、科学技術社会論学会柿内賢信記念賞特別賞を受賞。専門は科学哲学・科学技術社会論。遺伝子組み換え技術等に関する市民参加型の合意形成会議(コンセンサス会議)を開催。科学が問うことはできるが、科学だけで答えられない問題である、「トランス・サイエンス」を日本に浸透させた。

創発アドバイザー(五十音順)

唐沢 かおり 東京大学 大学院人文社会系研究科 教授

芳賀 京子 東京大学 大学院人文社会系研究科 教授

松下 佳代 京都大学 大学院教育学研究科 教授

満端 佐登史 京都大学 経済研究所 特任教授

※創発アドバイザーは順次公開予定

参照：創発事業HP



パネル・分野のe-Rad登録時の注意

- ✓ 審査を主査する創発パネル（創発PO）、研究分野（主）、研究分野（副）をe-Radで必ず指定してください。研究分野（主）と研究分野（副）が同じでも構いません。
- ✓ 特に、研究分野（副）はe-Radのシステム上では「任意項目」となっていますので、入力を忘れないようご注意ください。
- ✓ 研究分野（主）に、「人文・社会」または「その他」に属する分野コードを登録した場合、研究分野（副）は、必ず「人文・社会」および「その他」に属さない分野コードを選択してください。
- ✓ 審査の質の観点から、ご提案の研究分野に一番近いパネルおよび研究分野（主、副）を選択してください。なお、採択後には、パネル間の交流も推進します。

詳細は、募集要項 2.8.1、5.4、6.1へ



注意事項等

- ✓ 本事業の応募は府省共通研究開発管理システム（e-Rad）で受け付けます。e-Radでの応募方法や注意事項は募集要項第5章に記載していますので、ご確認ください。
- ✓ 応募に際しての注意事項は募集要項第4章に記載していますので、応募前にご確認ください。
- ✓ これから説明する内容については、昨年度までと大きな変更はありません。詳細は募集要項をご参照ください。



対象となる研究提案

失敗を恐れず長期的に取り組む必要のある挑戦的・独創的な内容で、以下①～⑤のいずれかに該当するような破壊的イノベーションにつながるシーズを創出する潜在性のある多様な科学技術に関する研究課題を求めます。

- ① 「新たな知の発見や創出」または「基本原理の解明」が期待されるもの
- ② 研究の多様性の観点から継続的に取り組まれるべき分野の研究であるもの
- ③ 新たな技術的知見の発掘や革新的な技術の開発が期待されるもの
- ④ 科学的・技術的知見の「融合」によるブレークスルーや新たな研究領域の創出が期待されるもの
- ⑤ 研究成果の実利用または普及のための社会やシステムの転換が期待されるもの

「破壊的イノベーションにつながるシーズの創出」に向け、**現時点で経済的な価値が明確でない理論的・基礎的な学術研究から応用研究に至るまで、幅広い研究を募集**します。提案に記載する「将来展望」については、必ずしも実装化について記入する必要はありません。それぞれの研究内容や分野の特性に応じた将来展望を記入してください。

詳細は、募集要項 2.1 公募の対象となる研究提案 へ



<補足> 提案にあたっての留意点

- 「破壊的」「挑戦的」＝「無謀」ではありません。審査では、提案内容に加え、それを実現する一定程度の「エビデンス」および、その挑戦的な研究を遂行する意欲・ポテンシャルを、総合的に評価します。なお、ここで言う「エビデンス」には、ご自身の成果だけでなく、他の研究者の論文や報告なども含みます。
- 創発では、挑戦的な研究を実現する研究者の遂行能力を評価するため、提案書の「創発的研究を実施する上での遂行能力」において「提案者の貢献」「アピールポイント」を記入して頂いております。また書面だけではなく、面接による評価を行っています。
→ 参照：提案書様式2-2
- 一次書類審査では、提案者が記入した分野（科研の小区分相当）の専門家による、提案内容を中心にした評価、そして二次書類・面接審査では、創発PO・ADによる、より横断的・多角度からの視点での提案内容そして遂行力を評価します。



応募要件

- ✓ 研究提案者自らの研究構想に基づく研究提案であること。
- ✓ 自ら発案した研究構想を実現するために自立して研究を推進できること。
- ✓ 所属研究機関において研究倫理教育に関するプログラムをあらかじめ修了していること。又はJSTが提供する教育プログラムを応募締切までに修了していること。

詳細は、募集要項 2.6 応募要件 [へ](#)



応募要件（所属等）

- ✓ 日本国内の研究機関に在籍の上、創発的研究を実施できること。
- ✓ 応募時に日本の研究機関に所属していない研究者は、2024年10月1日までに日本国内の研究機関に所属し研究開始することを条件として応募できます。
- ✓ 日本国籍を有する研究者については、研究開始の時期を採択後最大2年間猶予します。
 - 採択後2年以内に日本の研究機関に所属してください。
(応募時に帰国後の所属が決まっていなくても問題ありません)

詳細は、募集要項 2.6 応募要件 [へ](#)



応募要件（研究費獲得経験等）

- ✓ 自己の責任と権限により使用可能な研究費（研究代表者として獲得した研究費）を、過去2年以内に受給していたことがある、又は受給中であること。なお、これに準ずるものとして、現在、または、過去2年間に研究費を受給していない特段の事情がある場合などは提案書に理由を明記すること。
- ✓ 2021年度、2022年度、2023年度（現在）に支援を受けた公募による研究資金を対象とします。
- ✓ 所属する研究機関内の研究者のみを対象とした公募は含みません。

詳細は、募集要項 2.6 応募要件 [へ](#)



応募要件（経験）

- ① 2023年4月1日時点で博士号取得後15年以下
（2008年4月2日以降に博士号取得）
 - ② 医学、歯学又は獣医学を履修＋博士課程修了後に臨床研修を修了
→ 2023年4月1日時点で博士号取得後17年以下
（2006年4月2日以降に博士号取得）
- << 研究に専念できない期間があった場合 >>
- ③ 博士号取得後から15年以内（②17年以内）に、出産・育児の期間
→ 2023年4月1日時点で博士号取得後20年以下（②22年以下）
 - ④ 博士号取得後から15年以内（②17年以内）に介護等の期間
→ ①および②の条件に当該期間分（最大2年）を引き上げる
- ★ ③＋④の場合、①博士号取得後20年以下（②22年以下）を上限

詳細は、募集要項 2.6 応募要件 へ



応募要件（経験） <事例>

博士号取得

博士号取得後年数

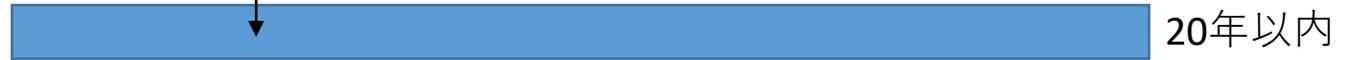


原則



15年以内

出産



20年以内

出産・育児
経験あり

出産



15年以内

介護

介護経験あり



介護期間 + 15年以内

出産・育児
・介護経験あり

出産

介護



20年以内（最大）

臨床研修



17年以内

臨床研修
経験あり

臨床研修



15年以内

臨床研修

出産



22年以内（最大）



応募要件（研究費の重複制限）

研究代表者等として獲得している場合

＜重複制限対象事業＞

最終年度の場合応募可能です。

・日本学術振興会所管の事業（科学研究費助成事業）

特別推進研究、新学術領域研究（研究領域提案型）（領域代表者のみを対象とする※1）、学術変革領域研究（A）
（領域代表者のみを対象とする※1）基盤研究（S）

・科学技術振興機構所管の事業

- ・ 未来社会創造事業（探索加速型（本格研究）及び大規模プロジェクト型）
- ・ 戦略的創造研究推進事業（ERATO、CREST、さきがけ（※2）、AIP加速課題の研究代表者のみを対象とする。ただし、AIP加速課題は、さきがけ・CREST終了課題に関連する研究課題の研究代表者のみを対象とする）
- ・ ムーンショット型研究開発事業（プロジェクトマネージャーを対象とする。ただし、ムーンショット目標8、9はコア研究のプロジェクトマネージャーのみを対象とする）
- ・ A-STEP（産学共同（本格型、シーズ育成タイプ））
- ・ 革新的GX技術創出事業（GteX）（チーム型研究のチームリーダーのみを対象とする）
- ・ 戦略的創造研究推進事業先端的カーボンニュートラル技術開発（ALCA-Next）（加速フェーズの研究開発代表者のみを対象とする）
- ・ 経済安全保障重要技術育成プログラム（K Program）（プロジェクト型及び個別研究型の研究代表者のみを対象とする）

※1 公募研究や計画研究の研究代表者は、重複制限の対象外となります。

※2 さきがけ・PRIMEの場合、研究開始の猶予制度があります。



応募要件（研究費の重複制限）

研究代表者等として獲得している場合

＜重複制限対象事業＞

最終年度の場合応募可能です。

・日本医療研究開発機構所管の事業

- 革新的先端研究開発支援事業（LEAP、AMED-CREST、PRIME（※）、FORCEの研究代表者のみを対象とする。）
- ムーンショット型研究開発事業（プロジェクトマネージャーを対象とする）

・新エネルギー・産業技術総合開発機構所管の事業

- ムーンショット型研究開発事業（プロジェクトマネージャーを対象とする）

・農業・食品産業技術総合研究機構所管の事業

- 生物系特定産業技術研究支援センター（BRAIN）ムーンショット型農林水産研究開発事業（プロジェクトマネージャーを対象とする）

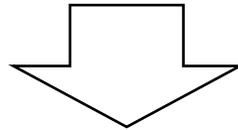
※ さきがけ・PRIMEの場合、研究開始の猶予制度があります（次ページ参照）。



応募要件（研究費の重複制限）

重複制限対象事業
当該研究が最終年度である場合

※ JSTさきがけ & AMED-PRIME
2025年3月末までに当該研究が終了する予定
(来年度が最終年度)



本年度創発への応募可能です

詳細は、募集要項 2.6 応募要件 [へ](#)



選考の観点

- ✓ 本事業の趣旨に合致しているか
- ✓ 本提案募集の対象となる研究提案であるか
- ✓ 研究提案者自らの構想に基づく研究提案であるか
- ✓ 研究構想を実現しようとする意欲があり、実現の可能性が感じられるか
- ✓ 必要な研究遂行能力及び体制を有しているか

次ページへ続く



選考の観点

- ✓ 研究構想の実現に向けた実践や他の研究者との議論・相互触発の取組等を通じて、新興・融合領域の開拓、関係研究分野の継続的な発展への貢献が期待できるか
- ✓ 創発的研究の遂行にふさわしい研究環境の確保に向けて、必要に応じて研究機関に対し協力を求めたり、調整したりする意志があるか
- ✓ 独立見込み（3年以内）の場合、その可能性が高いか

詳細は、募集要項 2.9 選考の観点 へ



【応募前対応必須】研究インテグリティに係る情報の登録

- ✓ e-Radの改修以降(2022年3月15日以降)に本情報の入力を行っていない場合は必ず情報を登録してください。既に登録済みの方は必要ありません。
- ✓ 入力方法は、創発公募情報ページ※に掲載される「別紙：府省共通研究開発管理システム（e-Rad）による応募方法」をご参照ください。
※ <https://www.jst.go.jp/souhatsu/call/index.html>
(e-Rad【研究者情報の確認・修正】→【所属研究機関】タブの、【e-Rad外の研究費の状況および役職と所属機関への届け出状況】にて、適宜情報を入力)
- ✓ 上記入力事項について適切に所属機関に報告をしていることを確認の上、「(3) 誓約状況」のチェックボックスに必ずチェックしてください。(※入力事項の該当がなかった場合も含め、提案者全員チェックすることが必須です。チェックマークが入っていない場合、応募が完了できません。)

詳細は、「募集要項4.3」、「別紙：府省共通研究開発管理システム（e-Rad）による応募方法」へ



その他連絡事項（高エネルギー加速器研究機構との連携）

- ✓ 高エネルギー加速器研究機構・物質構造科学研究所・放射光実験施設から、放射光利用に適した課題についてアドバイスを受けられます。また、創発的研究支援事業による研究課題は、高エネルギー加速器研究機構の放射光実験施設等の優先施設利用を受けられます。
 - ✓ 施設利用料：標準性能ビームライン 15,400円/時間、高性能ビームライン 30,800円/時間
 - ✓ 詳細は、<https://www2.kek.jp/imss/pf/use/program/>
- ✓ 高エネルギー加速器研究機構・物質構造科学研究所・量子ビーム連携研究センターから、放射光を含む、中性子、ミュオン、低速陽電子の複合的な利用（マルチプローブ利用）に適した課題についてアドバイスを受けられます。
 - ✓ 詳細は、<https://www2.kek.jp/imss/ciqus/>



本資料は概要の紹介です。

応募にあたっては必ず募集要項をお読みください。



募集・選考に関する連絡・お問い合わせ

募集・選考期間の連絡事項は

創発的研究支援事業の募集ホームページ

<https://www.jst.go.jp/souhatsu/call/index.html>

にて公開しています。

ご不明な点がありましたら、募集ホームページに記載している
問合せ先へご連絡ください。

souhatsu-application @ jst.go.jp